

開演待ちをしていた私達の目の前をかしぶちさんが通り過ぎて行く。
「女の色気は男の色気から学ばないと身に付きはしない」と、ある本に書いてあった一節がふと頭をよぎった。だから私はかしぶちさんを見続けるのだな、きっと。

「本人の意識とは無意識のうちについつい放ってしまう色気のコツ」を毎回新たに探し出すために。という訳で行って参りました、二度目の南青山 MANDARA。

かしぶちさんの「思わず放っておけない危うげな色気」に加えてゲストである矢野さんの「天真爛漫な大らかさ」が溶け合って非常にいい雰囲気でありました。

D / P

男女間における永遠に分かり合えないもどかしさ、切なさが全開。だからこそ相手が愛おしく、憎らしくなるのだけど。

恋のためらい

この歌詞ってついつい色んな事を考えてしまうんですね 妙に人恋しくなったりして。

緑の果て

一体緑の果てには何が待ち受けているのだろう・・・せめて一度位は見てみたい気もします(笑)

柔らかいポーズ

ここでチェロの四家さん登場。アレンジが泣かせます。

眩暈

これ前回やっていなかったのが凄く聴きたかった!!(感涙)抱きしめたら眩暈が のフレーズにいつもクラッとします。

プラトーの日々

アコースティックアレンジでまさか来るとは嬉しい裏切り。四家さんの泣きチェロ炸裂でバンドアレンジとは違う趣あり。最初のメロディーが「スタジオ・ミュージシャン」と似てません？

火曜日ならベルギーよ

秋 冬にかけての霧雨降る空の下、というイメージですね。

服を脱いで、僕のために

「月面讃歌」のコーラス部分を歌っていたのが印象的。

小さな兵士

最近ジョン・レノンに傾倒している息子さんに捧げられた新曲。かしぶちさんの解釈によるイマジン、という感じでしょうか？

リラのホテル(パロッキーVer.)

歌詞は同じなのにアレンジでこうも印象が変わるとは。ちょっと成熟した大人のバージョン。

春の庭

ピアノ弾き語りで叙情的に。

憂うつな肉体

心に住まう天使と悪魔にいつも翻弄され続ける・・・

紡ぎ歌

前回の岡山ライブで「それは無かったことに・・・」と敬遠された曰く付きのこの曲が聴けるなんて思っていませんでした。かしぶち楽曲の隠れた名曲。

S . E . X

あれ？リラのホテルコーナーなのにこの曲とは(^_^;)体の部分をささやいてゆく例の囁きがことさらエッチでした。

F r i e n d s

欲を言わせてもらえば矢野さんとご一緒して欲しかったけど、聴いてゆくうちに1人で飄々と歌うのも味が出てそれもまた良し。

屋根裏の二匹のねずみ

ここで再び四家さん、そしてスペシャルゲストの矢野さん登場。街角にひっそりと咲く、儂く美しくも清貧な世界。

d i a l o g u e

ここだけ芝居仕立てになっていて異彩を放っておりました。(歌の最中に食事をされていたんですけど、演出ですか？)相手の女性が変わるだけで随分印象が変わりますよね。以前、本間哲子 Ver.で聴いた時にはうんと年の離れたカップル、という印象があったのですが、こっちはさすがに貫禄が違う。矢野さんのやりとりにかしぶちさんがタジタジになる一幕も。

リラのホテル(オリジナル Ver.)

一度のライブで同じ曲しかもアレンジ違いを聴けるとは何て贅沢。パロッキーと比べると随分若々しい感じに聞こえます。

ひまわり

岡山ではすごく盛り上がってたらしいですが、只ひたすらに耳を傾けていました。東京のお客はシャイなんです(^^;)

オールドレディ

ピアノ弾き語りです。本家では絶対演奏されないから、ソロで取り上げてくれて凄く嬉しいです。

Listen to me Now!

矢野さん、四家さんも交えて。これ聴くとなんか心がウキウキしてきます。

釣り糸

次回ライブの予告も兼ねて。これ聴いてると日本のようで日本じゃないような不思議なエキゾチズムが漂ってますよね。

新曲あり新アレンジありで懐かしの名曲ありで何だか「非現実的な時間」を共有していた気がします。

HP 掲載に当たりオリジナル原稿より改行位置変更させて頂きました。
(檜の会 KRAFT.WARTZ)